

(様式例)

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨特別支援学校

学校番号 119

自己評価

学校教育目標	「ひとりだちのできる子」の育成（自立と社会参加の力を育てる） （思いを伝える 自分も仲間も大切にしたい自分を目指す） ・生活自立（基本的な生活習慣の確立・基礎体力の向上・基礎学力の定着） ・社会自立（情緒のコントロール・コミュニケーションスキルの獲得・規範意識や危険回避能力の育成） ・職業自立（自己理解と行動の調整・働くことの意義や役割の理解・職業に対する理解や実際的な知識・技能・態度の習得）
評価する領域・分野	「学校教育活動の周知」（教育活動、保護者・地域連携、情報提供）
現状及びアンケートの結果分析等	・作品展や写真展を、時期や場所に依りて内容を変え、併せて児童生徒が授業で使用している教材教具の展示も行ったことで、多面的に学校の教育活動を周知することができた。また、地域の学校関係者や児童生徒が利用する福祉事業所等の学校見学を多数行い、特別支援教育の理解を深めることに努力した。学校評価のアンケートでは、「あてはまる」との回答が90%を超えており、学校のとり組に対して高評価となった。
今年度の具体的なかつ明確な重点目標	・実際に児童生徒の学習活動の様子を見学し、目的や支援の方法等を説明することで理解を深める。 ・地域に向けて、当校の教育活動について発信する。 ・学校間の交流を通して、児童生徒や教育活動に対する理解を深める。 ・市内の小・中・高等学校へ見学の機会を案内したり訪問を行ったりして、特別支援教育への理解を深める。
重点目標を達成するための校内組織体制	・学校ホームページの充実（学習支援部） ・作品展・写真展の開催（学習支援部） ・当校の教育活動の見学、相談（コーディネーター） ・地域の学校の特別支援教育への支援（コーディネーター・研究研修部） ・高山市の教育支援会議への参加（コーディネーター） ・教育事務所、高山市教委が開催する会議の会場提供（管理職）
目標の達成に必要な具体的な取組	・外部での行事等でホームページのQRコードを掲示する ・作品展の時期や実施場所に合わせて、展示内容を工夫する ・展示の開催前に、商業施設にてPR展示を行う。 ・小中学生とその保護者に、随時見学相談の機会を設ける。 ・各学校の依頼を受け、訪問支援を行う。場合により、訪問後も支援の在り方について連携を図る。 ・夏休み以外にも、写真展と併せて教材教具を展示する。 ・高山市教育研究会に参加し、授業研究を深める。 ・教育支援会議で出される児童生徒について、支援方法や学びの場について検討する。 ・教育事務所や市教育委員会が主催する会議を当校で開催することを依頼し、教育活動の説明や授業見学、質疑応答の時間を設ける。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・学校評価アンケートの内容 ・児童生徒の目標に対する評価 ・懇談時の保護者からの意見

取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・商業施設でのPRは、幅広い世代の多くの方の目に触れることになっている。 ・現在の学校生活に困り感があったり、進学を考えるタイミングであったりするときに、在籍学校を通じて見学や相談に来校する小中学生とその保護者が多い。相談内容に応じて、対応する教員を選んで実施している。 ・市内各ブロックの支援会議にコーディネーターが参加し、各小中学校の支援が必要な児童生徒について話をした。 ・地域の学校の先生方や児童生徒が利用する福祉事業所の方に実際に当校の教育活動を見ていただき、質疑応答を行った。福祉事業所からは大勢の参加があった。
評価の視点	評価
① 写真展や作品展では、場所や内容を工夫することで学校の教育活動をより深く知ってもらうことができたか。	Ⓐ B C D
② 学校見学の機会を多く設定し、様々な立場の地域の方が当校に教育について知ってもらうことができたか。	A Ⓑ C D
③ コーディネーターが、高山市小中学校の就学の会議に出席し、児童生徒の適正な学びの場について、検討することができたか。	A Ⓑ C D
成果・課題	総合評価
<p>○展示する場所と当校との結びつきを考えて内容を工夫することで、作品だけでは見えてこない教育活動についても知っていただく機会とできた。実際に教材を見ていただくことで、学習内容や「〇〇すればできる」という「合理的配慮」ということを知っていただく機会とすることもできた。</p> <p>○地域の学校の教員の見学機会を多く設定し、学習内容や支援方法を直接みていただくことで、地域の学校における特別支援教育の専門性の向上に役立てたと考える。</p> <p>▲広く、地域の一般の方々へ学校見学をしていただく機会は設定できなかった。</p>	A Ⓑ C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・作品展示については、場所の変更やより多く人が集まる施設での開催を検討し、広く周知できることを目指す。 ・児童生徒が、自分たちの取組や学校行事について、自らPRすることができる機会を設定し、児童生徒を知ってもらう機会を作る。 ・地域中学生の進路選択の場面において、当校の教育活動に関する情報が提供できていないと感じる。地域の教員に向けた公開授業を行い、より多くの教員に理解を促していきたい。 ・コーディネーターの活用について、さらにPRしていきたい。 ・地域の学校で参考にできるような教材集を作成する。

学校関係者評価 (令和 7年10月16日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品展で展示されていた作業製品を見て、購入の問い合わせがあった。展示を通して、児童生徒の頑張りが評価されていると感じる。 ・一般の人への周知が必要だと感じる。今後もいろいろな機会に学校に来てもらうような工夫をして、学校や児童生徒が元気であることを知ってほしい。 ・特別支援教育の講演会を、地域の人に開放するのもよいのではないかと。 ・地域の学校に通っている子どもの中にも、発達障がい等で生きにくさを感じている子どもはたくさんいる。センター的機能で、特別支援学校の教育を地域の学校にも伝えていけるとよい。
--